

## 周防様の由来

布川の茶畑から東犬飼へ通る道がある。昔ここは櫛塚といって三軒の農家があった。どの家も豊かな生活をしてきた。このあたりは、静かな山にかこまれて田んぼもあるし日当りはよいし、みんな助け合ってむつまじく暮らしていた。今から二百年程前であろうか。無宿者の旅僧がこの部落にやって来て、無理に一夜の宿を頼んだ。部落の人々は、それは、かわいそうだと思って、その旅僧をとめてやった。旅僧は初めはおとなしい良い人柄の様に見えたが、二三日もこの部落にとまり込んで、ほかへ動こうともしなかった。そして、日頃好きな酒を出せと農家の主婦にせがんだりした。宿の主婦は困ってしまった。主人と相談して仕方なしに酒を出してもてなした。

旅僧は周防といって諸国を巡って歩いて、占いやまじないをしながら人々からお米や金をもらって歩いていた。そしてこの部落の人々がとてもお人好しなことを見抜いて、どこにも行こうとしなかった。そして毎晩酒をのんで、気にくわぬとあばれるようになった。そこで、部落の三人のだんなたちが集って、旅僧にどこかに行くように交渉をした。旅僧はとてもおこり出して、「火をつけるぞ。」などと、どなり散らしたりした。部落の人たちはみんなこの旅僧を恐れ出した。「名主をお願いして、何とかほかに行ってもらうようにしよう」ということで三人連れだつて名主や組頭をお願いした。しかし、旅僧は狂人のように酒をのんでは、悪口暴言をしてあばれ回った。名主も組頭もこの旅僧をもて余した。部落の人たちはがまんが出来なくなつた。「このままでは、私らはどんなになるかわからない。いっそ、あの坊主をやってしまふ方がよい。」と考